

## 「不来子先生」能を再び観て聴いて Seeing and Hearing Noh Blyth-Sensei Again

日江井 榮二郎  
HIEI Eijiro

---

今回も亦素晴らしい体験をしました。ご準備された先生方は普段以上に大変であったと拝察いたします。しかし、公演は今まで以上に良いものという印象です。感想をご笑覧ください。

深淵な詞章が交わされる舞台上、今回は尺八が加わりました。能で尺八が演じられるのは初めて聴きましたので、宗方先生に訊くと世阿弥の時にはそのようなこともあったとのこと。

中村明一氏が切り戸より現れ舞台正面に静かに座られ、やがて尺八から奏でる音にまず驚きました。男らしい大地の響きとともに、澄んだ音が耳に入りました。演奏された楽音は、シテの格調高い舞と地謡の「われらが足下に大地あり。われらが頭上に天空あり。人は宇宙・大自然の中にあり」とが、響き合っていました。

さらに地謡が「月日は百代の過客にして、行くかふ年も旅人なり」と謡いあげた後に尺八の音を響かせながら橋掛かりをゆっくりと揚幕に向かって去っていく。しかし尺八が揚幕に消えても音が響てくる。将に百代の過客のごとくに永遠に響き続けているかのごとくでありました。終わってから座禅をしているかのようにだと気が付きました。この能には尺八の役割が大切であると思いました。

さらに地謡が「月日は百代の過客にして、行くかふ年も旅人なり」と謡いあげた後に尺八の音を響かせながら橋掛かりをゆっくりと揚幕に向かって去っていく。しかし尺八が揚幕に消えても音が響てくる。将に百代の過客のごとくに永遠に響き続けているかのごとくでありました。終わってから座禅をしているかのようにだと気が付きました。この能には尺八の役割が大切であると思いました。

(東京大学名誉教授・天文学・ISHCC 顧問)